

2017年5月26日

岐阜県知事 古田 肇 様

長良川の環境改善を求める要請書

よみがえれ長良川実行委員会 共同代表 粕谷 志郎
亀井 浩次

貴職の日頃の河川行政推進のご努力に敬意を表します。

木曾川水系連絡導水路事業は、2007年関係者間の合意から始まっていますが、現在、凍結・検証中となっています。2010年に始まった「ダム検証」において国・水資源機構の事業で未だに結論が出ていないのは本事業のみとなりました。10年が経過し当初の完成予定時期を過ぎても何の支障もなく「完成」を期待する県民の声もありません。一方、調査費等の名目で毎年数億円の血税が使われていることに国民は大きな疑問を抱いています。また、私たちが毎月行っている水質調査の直近の調査結果では、導水路計画取水地点（揖斐川：西平）と計画放水地点（長良川：古津）で、水温の差が6℃以上もありました。徳山ダムの水が長良川に流されることによる鮎をはじめとする生物への影響・環境悪化の危惧はますます深まります。貴職は、清流長良川を守るために「検討の場」において、導水路事業の中止をぜひ主張してください。

一昨年、下流域を除いたまま長良川が世界農業遺産に登録されました。国連生物多様性条約愛知ターゲットの達成を目指す愛知県では、昨年長良川河口堰最適運用検討委員会が長良川河口堰の開門調査の実現を市民に訴えるパンフレット「166キロの清流を取り戻すために」を発行し普及しています。反響は広がり、岐阜県の漁業関係者などからも歓迎されています。清流の国づくりを目指す岐阜県の長良川河口堰開門調査に向けた取り組みを求めます。

長良川の支流である亀尾島川の源流部で、本体工事が始まった内ヶ谷ダム建設事業ですが、事業目的もあいまいなまま、工事費は膨れ、事業の意義が問われています。工事を中断しもう一度、検討すべきだと考えます。

以上の趣旨から下記の要請事項に回答されるようお願いいたします。

記

1. 木曾川水系連絡導水路事業の関係地方公共団体からなる検討の場において、長良川の環境悪化の危惧を表明し、「事業の中止」を主張すること。
2. 愛知県の長良川河口堰開門調査の提案を受け「開門調査」に向けた取り組みを行うこと。
3. ダムによらない伝統的防災施設施策の充実をはかり、内ヶ谷ダム建設事業の再検討を行うこと。

要請書と新聞記事

長良川導水路計画中止を環境保全団体が県に要望書提出

長良川の環境保全を

目指す市民団体「よみがえれ長良川実行委員会」は二十六日、木曾川導水路計画の中止や長良川河口堰の開門調査の実現など三項目の要請書を県に提出した。粕谷志郎共同代表（六十九）ら約十人の会員が県庁を訪れ、井上清敬河川課長に手渡した。導水路は揖斐、長良、木曾の三川を地下トンネルで結び、徳山ダム（揖斐川町）の水を流す計画。二〇〇九年に当時の民主党政権が事業を凍結した。粕谷共同代表らはこの日、生態系の悪化が懸念されるとして、関係自治体による検討会議の席で、県に事業中止を主張するよう求めた。

河口堰について、農閑期だけ一時的に開ける「プチ開門」が愛知県の検討委員会で提案されていることにも触れ、岐阜県も開門調査に前向きに取り組むよう求めた。長良川支流で昨年着工した内ヶ谷ダム（郡上市）の再検討も訴えた。

これに対し、県側はいずれも否定的な考えを示した。粕谷さんは「長良川の環境にとつて致命的になる。よく吟味してほしい」と話した。（近藤統義）

井上課長に要請書を手渡す粕谷さんも県庁で

2017/5/27 中日新聞